

優秀賞

「言葉」という親切

大阪府 芝谷中学校 一年
藤谷 香那

定期テスト当日。あと15分ほどで一時間目のテストが始まるという朝休みに、今日提出の英語の問題集を家に忘れてしまったことに気がついた。

「どうしよう」

このひとことが、頭をぐるぐるとまわる。一度心を落ち着かせようと廊下に出ると、運よく英語の先生が水道の掃除をしていた。泣きそうになりながらも声をかけ、事情を話した。

先生の答えは、

「明日の朝に、職員室に提出しに来てくれればいいですよ。今日の放課後に学校まで持って来ても、マイナス一の減点には変わらないので。」だった。私は、「わかりました。本当にすみません。」と返事をして、昨夜、確認を怠った自分を責めた。しかし、そんな感情は先生の次の言葉で一瞬にして吹き飛んだ。

「たった一点の減点なんて小さなものですから、そんなことは気にせずに実力を発揮してくださいね。いつものあなたなら、きっとテストは大丈夫です。問題集を忘れたことを気にして、テストに集中して取り組めないほうがもったいないですよ。」

先生の優しさに、さっきとは違った感情による涙がこみ上げてくる。頭を下げてお礼を言い、気持ちを切り替えて気合を入れようと、水道で顔を洗うと、先生はさらに「頑張ってください。」と励ましてくださった。今度こそ本当に泣いてしまいそうになったが、顔を洗うのと同時にこみ上げてくる涙も洗い流せた。

先生のおかげで、テスト中に家に忘れた問題集が頭をよぎることはなく、落ち着いてテストの問題を解くことができた。英語は惜しくも満点には一点届かず99点だったが、あのとき廊下で先生に出会えていなかったら、この点数にはとても届かなかっただろう。

「頑張ってください」

先生にとっては、なにげないひとことだったのかもしれない。でも、私にとっては、ブルーな気持ちを切り替えさせてくれた大切なひとこととなった。私は、相手が落ち込んでいるときに、ほんの少しの勇気を出して言葉をかければ、きっと思いは届くのだと、そして、たとえ真っ黒に染まった心にだって、光を射すことができるのだと、心から感じた。

翌日、私は問題集に、先生の言葉に落ち込んでいた心が救われたことと、それへの感謝を綴った付箋を貼って提出した。数日後に返却されたときには、付箋には赤ペンで何か書き足されていた。

「Good for you!!」

家に帰って英和辞典を引いてみると、「よかったね!!」という意味だった。先生のひとことで、私の心は一気に軽くなるのだと、改めて実感した。

成績の減点はされたしまったが、それ以上に大きなことを先生から教わった。自分の小さな勇気や行動で、相手を笑顔にすることを親切というのなら、言葉をかける、ただそれだけでもれっきとした親切になると気づかせてくれたのだ。

また、新型コロナウイルスの影響で外出を控え、人と人との関わりが減ってきてしまっている今だからこそ、「言葉」という親切はとても重要だと感じた。これから、どんな言葉を使って私の大切な人たちを笑顔にしていこうか。そう考えると胸が高鳴った。